言葉の力 (2)

大岡 信

次の表は、教科書本文の内容をまとめたものである。

まとまり1

言葉の本質

単独にそれだけで美しい言葉、正しい言葉というものはない。

（理由）

言葉というものの本質が、それを発している人間全体の世界を背負ってしまうところにあるから。

＝（言い換え）

人間全体が、ささやかな言葉の一つ一つに反映してしまうから。

まとまり2

染織家志村ふくみさんの話

筆者は、志村さんから、桜の花が咲く直前の頃の黒っぽい桜の皮から美しいピンクの色がとれると聞いた。

↓

桜は樹木全身で春のピンクに色づき、そのピンクの先端だけが花びらに現れ出る。

まとまり3

桜の花びらと言葉

言葉の一語一語は、桜の花びら一枚一枚と同じ。花びらがその背後に花びらの色を生み出している大きな幹を背負っているように、言葉はその背後にそれを発している人間全体を背負っている。

そうしたことを念頭において言葉を考えれば、一語一語の言葉の大きな意味が実感でき、美しい言葉、正しい言葉が初めて身近なものになる。

確認テスト 教科書本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) 本文の内容に合うものを選びなさい。

ア 言葉はそれを発する人間全体を背負ってしまうので、単独でも美しく正しい言葉だけを使うようにするべきである。

イ 言葉というものの本質は、その言葉のもつ美しさが、それを発している人間とは無関係だということにある。

ウ 言葉を発するときには、その人間の全体が、発する言葉の一つ一つに反映してしまうものである。

〔　　〕

(2) 本文の内容に合うものを選びなさい。

ア 筆者は、志村さんから、春先の桜の花びらから美しいピンクの色がとれるという話を聞いた。

イ 筆者は、志村さんから、春先の桜の皮から美しいピンクの色がとれるという話を聞いた。

ウ 筆者は、志村さんから、桜の樹皮は春先には黒っぽくてごつごつしているのだと聞いた。

〔　　〕

(3) 本文の内容に合うものを選びなさい。

ア 言葉は口先だけのものにすぎないので、単独にそれだけで美しい言葉、正しい言葉というものはない。

イ 言葉はその背後に大きな幹があるので、どんな言葉であっても美しい言葉、正しい言葉であるといえる。

ウ 言葉はそれを発する人間全体を背負っているのだということを意識すると、美しい言葉、正しい言葉が身近になる。

〔　　〕

(4) 一語一語の言葉は、桜における何に当たるか。適当なものを選びなさい。

ア 桜の花びら　**イ** 桜の樹皮

ウ 桜の幹　**エ** 桜の木全体

〔　　〕